

これは特集記事の制作前に、当時作成した企画書の抜粋です。
特集紙面の制作意図や取材した事業者の情報など、参考にご覧ください。

<2022.12月号特集> 廃校利活用 企画書

目的

近年、少子化の影響で児童数が減少し、「廃校の活用」が地方自治体や民間事業者から注目を集めている。

本市でも、2005年以降に15校が廃校となったが、うち9校は市や民間事業者によって活用されている。市としては、行政備品や災害物資などの保管庫としての利用や、市の施設として執務室を移転し、研修やICT教育の拠点として活用している。一方、事業者は、オフィスとして利用したり、住民などに施設を開放したりなど、地域で有効活用してもらいながら地域貢献に取り組んでいる。

廃校の活用は、「持続可能な社会」を目指す上でも大切な取り組みと言える。今回は、事業者が廃校をどのように活用しているのかに焦点をあて、廃校が地域交流の「始まり」となる可能性を持っていることを読者に知ってもらおうきっかけとする。

取材先事業者の概要（情報は2022年12月時点のもの）

○旧郡山市立鬼生田小学校

計画する施設名称
エディソンサスティナブルサイト
計画する施設の用途
1. 企業オフィス 2. 自社研究施設 3. 災害時避難所
活用事業の概要・コンセプト
1. 学区住民思い出の場の存続 2. 災害時に活用できる避難所構築 3. 廃校を利活用した再生可能エネルギー導入のモデルケース構築 4. 従業員技術力アップ拠点 5. BCP対策(事業継続計画)再エネ電源を用いた事務所機能の構築

○旧郡山市立大田小学校

施設名称
smart School Test Field
計画する施設の用途
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校テストフィールドとして活用 2. コワーキングスペース、オフィススペース、宿泊施設として活用 3. 交流会、セミナー、展示会の開催 4. 社内外の利用者を対象としたカフェ・交流スペースの運営 5. テストラボとしての活用 他
活用事業の概要・コンセプト
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校向け ICT 教育サービスのプレ実証実験を目的とした「smartSchool Test Field (学校テストフィールド、以下「STF」)」を構築する。 2. STF は、カメラセンサーなどによる定量的空間情報（位置指標・環境指標など）の変化量と適正化指標（バイタル指標など）に基づいて、「学習に最適な環境やコンテンツ」の実証実験を行うためのテストフィールド。 3. 利用者（子ども、教職員、保護者）の安心安全の確保、利便性向上、負担軽減のため、学校現場への導入前に STF を活用し、ICT 教育サービスおよび機器の実証実験をおこない、サービスの品質向上をはかる。 4. EdTech 事業者は、教室型、校庭型、体育館型、プール型、そして学校全体のリアルな環境を有する STF で実証実験を行い、実際の学校教育現場に近い実証データを取得することができる。

○旧郡山市立上伊豆島小学校

施設名称
ドリーム・ラボ上伊豆島
計画する施設の用途
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域への支援活動場所の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育館、校庭の地域住民への開放 ・ コワーキングスペース、インキュベートルーム、Web 配信スタジオ等の設置 2. 各種少人数イベント・セミナーの主催及び開催支援 (例) IT (デジタル) 人材育成講座や料理教室など 3. 旧上伊豆島小学校歴史資料館の運営 ー卒業生が集い、上伊豆島小学校の思い出話に花を咲かせる場所ー 4. 災害時の避難所開放及び災害対策用品保管場所の提供 5. 太陽光発電及び蓄電設備の運営（平時は施設の運営に使用し、有事は非常用電源として使用）

6. 自社オフィスとしての利用

活用事業の概要・コンセプト

新しい生活様式に対応した、人が学び・働き・遊び・夢を形にする場

ー持続可能な地域社会の実現とより地元に密着した IT 企業を目指してー

(参考) 市ウェブサイト「廃校アルバム」

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/26/3355.html>

